2019年10月

「暑さ寒さも彼岸まで」と言われますが、今年は10月に入ってもまだ蒸し暑いですね。やはり、温暖化が進んでいるんでしょうか…。

今回私がご紹介したい本も、昔と今を考えさせてくれる本です。それは、『スズメ つかず・はなれず・二千年』三上修著 岩波書店 2013です。スズメは身近にいる鳥ではありますが、年々少なくなっていると言われています。たしかに、昔の方がたくさんのスズメを日常的に見た気がします。私が最近見たのは、年末年始の時期に玄関のしめ飾りに群がっている光景でした。しめ飾りに付いている稲穂を食べに約10数羽のスズメが集まっていたのです。最近、こんな数のスズメを見ていなかったので、やっぱりお米が好きなんだなぁと思うと同時に、ちゃんと食べるものはあるのだろうかと考えてしまいました。

ところで、スズメ1羽の重さはピーマン1個分くらい（20～25グラム）の重さなんだそうです。その倍の50グラム（卵1個）はあるものと私は思っていました。スズメはなかなか人に慣れないので触ることができないため、意外に知らないことが多いかもしれません。この本では、スズメの誕生から特徴や文学、そしてスズメの減少についても書かれているので、網羅的に理解できます。

スズメなど鳥類は現存する生物の中で最も恐竜に近い生き物であり、恐竜の生き残りであると考える人もいらっしゃるんだそうです。ちなみに、恐竜から鳥への系譜の図が載っています。

スズメの寿命は、日本における自然条件下で最長記録は6年3カ月だそうです。平均的な寿命は正直分からないようですが、多くのスズメが若い時に死んでしまうのです。卵100個のうち、ヒナになれるのは60羽、巣立ちを迎えられるのは50羽、翌年まで生き残れるのは10羽、２年目まで生き残れるのは6羽、３年目まで生き残れるのは4羽、４年目まで生き残れるのは2～3羽、５年目まで生き残れるのは1～2羽、６年目まで生き残れるのは1羽ほどしかいません。このことからもスズメが自然界で生きていくのは大変なんだと気付かされます。

スズメの減少は、①スズメによる農業被害の変遷（農林水産省が集計しているスズメによる農業被害面積の記録） ②スズメを駆除・捕獲した数の変化（環境省が記録している駆除・捕獲されたスズメの個体数） ③スズメの分布の比較（環境省が行っている鳥類繁殖分布調査の記録） ④鳥類標識調査におけるスズメの割合の変化（山階鳥類研究所が全国各地で定期的に行っている鳥類標識調査の記録）の4つの記録全てにおいて、示されていたそうです。約20年で20～50%も減少しているのです。主な原因としては、スズメの巣をつくる場所が減ったことと、コンバインの登場でスズメが餌をとりにくくなったことが記載されています。

このまま減少して、スズメを見ることができない日がくるのではないかと思うと、現時点で私たちに何ができるのかまずは考えなければならないと感じます。